5）その他，質疑応答

旭川市立の認可保育所待機児童数，協会委託施設運営費等（略）

同市における季節保育所は，「季節保育所設置要綱」（1957 年），「へき地保育所設置要綱」（1961 年）などの国の施策を背景に，地域的に会館の設立が契機となって開始された。

その後，「旭川市へき地保育所及び季節保育所条例」（1971 年条例第 32 号）に基づいて設置運営されてきた。保育者不足は慢性的であり，これまでも教員の妻，大卒で無職の人などを頼りにボランティア的要素が強い。所長は 80 歳代もおり，高齢化。実質的に管理運営にあたっている人たちも高齢化傾向。通年制の園児世帯は母子家庭が多く，結果，園は経営的にも厳しい状況である。新制度にむけて，へき地保育所の多くは休所せざるを得えない。協会は一般財団法人として 4 月よりスタート。給付型施設として新たな転換点を迎える。

5．総括と課題

旭川市に赴き，季節保育所管理運営に携わってきた団体の事務局長と保育所長に聴き取りすることにより，同市のへき地保育所，季節保育所の設立経緯とその変遷，存在目的や意義の変容が具体的に捉えられた。またそれとともに，新制度がそれらの地域的特性を超えて認可外保育所にも新たな方向性を突きつけている現状が理解できた。それはすべての子どもに質の高い保育を保障する再生となり得るのだろうか。

今年度の総括と次年度にむけての課題は，時代区分によってすでに整理済みである。次年度は，それらの課題をもとに本研究会の目的である日本の保育史（通史）の作成にむけて継続研究の予定である。

（文責　髙田文子）

保育実習指導における個人記録の活用方法の検討

子ども学科　松永　静子
子ども学科　市川　奈緒子
保育科　中山　正雄
実習指導センター　主藤　久枝
実習指導センター　酒本　知美

研究の背景と目的

保育士養成における実習とその指導は，学生の成長を支える大きな意義を持つ。そのため，実習の記録の質の向上やその活用は非常に重要であり，養成校における実習指導の課題の１つになっている。また，平成２３年度より新保育士養成課程がスタートし，実習の事前事後指導の更なる充実が求められるようになった。そのため，新課程以降，実習の事後指導における自己評価の導入，振り返りの記録の活用などの研究報告がここ数年増加傾向にある。同様に本学でも保育実習Ⅰ，Ⅱにおける保育所実習および施設実習において実習の個人記録を効果的に活用し，検討し研究する必要があると考えた。

本研究の目的は，本学の実習指導の個人記録の活用として，ポートフォリオの作成について，実習記録を効果的に活用している養成校の視察等を行い，その結果を分析し，養成校における個人記録の活用の在り方を検討するとともに，ポートフォリオ化が学生の自己理解を中心とした成長に

どのように寄与するかを明らかにすることである。本報では主に視察３校について結果を報告する。

以下は，その視察報告である。

＜文京学院大学視察報告＞

１．視察日時

2013 年 12 月 6 日（金） 10 時半～ 12 時

２．文京学院大学側担当者

文京学院大学人間学部児童発達学科

准教授　柄田毅先生

３．視察結果

１）人間学部児童発達学科とそこにおける実習の概要

児童学科は，１学年１４０名の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭免許のとれる学科であるということから，本学子ども学科に条件的には非常に似た学科である。幼保をとる学生の実習は，２年生の幼稚園実習１週間から始まり，３年生で保育所実習Ⅰ，施設実習Ⅰ，保育所ないしは施設実習Ⅱをおこない，３年生で幼稚園実習を３週間おこなう。

２）実習の自己評価について

実習自己評価シートというものを６，７年前から導入した。最初は実習の事後指導の中で書かせていたが，現在は必要に応じて書いたものを，実習担当者が学期に１回ずつ面接しながらチェックする体制をとっている。現在，シートの自己評価の数値を入力して分析しているところである。結果はまだ出ていないが，自己評価シートを作成していくことによって，学生に省察の意識が育っていること，実習の中で何が求められているのかをつかむ手立てになっていると感じられる。教員にとっては，学生への評価の確認にもなっている。

３）ポートフォリオについて

初年次教育の一環として３年前に作成された。１年前期に初年次教育担当者７名が指導，１年後期からは実習担当者６名が指導している。通常は実習指導室（本学の実習指導センターのような部署）に保管されている。内容は実習のことだけではなく，自分自身を知ることから，大学で学ぶこと，生活や友達関係のことまで多岐に渡る。学生にとっては，自分の成長記録になっている。経営学部では，ポートフォリオをデータ化しているが，使用しにくいところがあるところと，記入するのに学生のスキルが追いついていないところがあり，児童学科では紙ベースでと考えている。

４）その他の実習指導体制について

実習ごとに，振り返りレポートおよびテーマごとに学生が話し合ったことをまとめたレポートの提出を義務づけている。実習担当者が一堂に会しての実習担当者会議を持つことにより，前回の実習を踏まえた実習指導ができていると感じられる。

４．視察の感想

初年次教育が充実しており，また，４年間を見通しながらキャリアデザインのスタートとして明確に位置づけられている点が印象的であった。各実習も，４年間の大学の中での学びの１つとして位置づけられていた。各実習が教員のチームで運営されており，チームとチームとの連携がよいことが，実習の事前事後の指導を有機的につなげていく土台となっているものと考えられる。

（文責：市川奈緒子）

＜和泉短期大学視察報告＞

１．視察日時

2014 年 1 月 11 日（金） 11 時～ 13 時

２．和泉短期大学担当者

児童福祉学科　准教授　相馬靖明先生

３．視察結果

１）実習の概要

児童福祉学科は定員２５０名であるが２学年合わせて５００名以上の学生が在籍している学科である。１年生後期に保育所実習Ⅰ・

施設実習Ⅰ，２年生前期に保育所実習Ⅱ又は施設実習Ⅱ，教育実習を行っている。

2）実習記録を含めたキャリアファイルについて

和泉短期大学の保育者養成は入学前教育から始まる。そのため今回入学前教育の授業も視察を行うことができた。この授業でのワークシートからファイル化される。入学後は文章表現，文章理解など様々な自習教材に取り組んだ，その成果を綴じるバインダーファイルとなる。各教科・実習指導との連携も必要となる。このキャリアファイルには「履修カルテ」も組み込まれている。実習授業などは少人数単位のグループ指導を行っており，アドバイザーを配置している。卒業や資格免許取得に必要な科目の「履修と単位取得状況」「各種実習の取り組み状況」「就業へ向けた活動への取り組み状況」を自分で記入しアドバイザーが内容を確認するシステムである。キャリアファイルには「取り組み進度確認表」も入れている。それぞれの時期に課題として提示されるワークには，いつまでにやるのかという期限を設け，その取り組み状況を「取り組み進度確認表」に記入しグループアドバイザーの教員が確認する。ワークシートは生活習慣・生活技術についてのワークシート，保育の教材研究についてのワークシート，実習振り返りや自己課題のワークシートもキャリアファイルに入る。生活ワークシートは実習の実施や就業へ向けて必要とされる生活を営む基礎的な力を身につけるために，まずは自身の生活リズム（睡眠・食・運動）を見直したり，各種実習で必要とされる生活技術について確認したりするためのもので，自己確認記録がその後の学習や実習につながっていくことがわかる。

４．視察の感想

入学前から保育者養成として本格的な教養教育がはじまり，入学後は学生の授業での学びと実習指導での学びを連携させ，すべての学びの記録をポートフォリオ化し，キャリアファイルとして生かしている。実習の振り返りについてはⅠⅡの実習時期がタイトで十分な振り返りができないなどの課題があるとのことであった。全体としてキャリアファイル化したことで学生の２年間の学びを実習担当と教科担当双方で支援を行う体制が可能になり,成果をあげているのではないかと考える。

（文責：松永静子）

＜十文字学園女子大学視察報告＞

１．視察日時

2014 年２月 19 日（金）　10 時～ 12 時

２.十文字学園女子大学担当者

幼児教育学科　教授　上垣内伸子先生

３．視察結果

1）実習の概要

十文字学園女子大学の実習は幼児教育基礎実習（幼稚園）が１年次後期，３ヶ月間で学園内の幼稚園で行われる。保育所実習Ⅰ施設実習Ⅰは３年次８月グループと３年次２月グループに２分して実習を行っている。同じ３年次の２月には幼稚園実習１週間もありその後保育所又は施設実習となり続けての実習となる。そのため幼稚園実習，保育所実習の実習指導は同じ担当者であり，同時進行ですすめられている。幼稚園実習指導の時間内に保育所，施設の振り返りも行われる。４年次前期には幼稚園実習３週間，７月８月に保育所実習Ⅱ又は施設実習を行っている。

2）実習自己評価，事後指導の記録について

保育士養成課程導入以前から幼稚園実習指導における自己評価，事後指導の充実を図り，ポートフォリオ化も実施していたとのことである。

４年間の各実習で学びたいこと，学んだことを個人記録用紙にすべて時系列で書かれているため，自分の成長を可視化できる記録となっている。幼稚園と保育所実習の４年次の

事後指導は責任実習に関して綿密に行われ，振り返りでは幼稚園と保育所を併記で記録させている。２つの実習を相対化しながら振り返り自己評価をし，保育者としての自己課題を明確にしていくことが求められている。また振り返りの際の項目として，学生が振り返りやすいものが挙げられていた。たとえば，「子どもに助けられたと感じたこと」，「自分の予想を超えた子どもたちの発想に感心したこと」，「思いもよらない反応に戸惑ったこと」などである。これら４年間の各実習すべての振り返りは実習センターにポートフォリオとして保管されていて，教員がいつでも個人指導に生かせる記録となっている。

４．視察の感想

今回視察を受け入れてくださった上垣内伸子先生は十文字学園女子短期大学紀要（2000）の「実習を通して自らの成長を実感できる実習指導を目指して」の中で「子どもと実際にかかわり，記録と話し合いによって振り返って考えることを通して，認識が深まるだけでなく（抜粋）次の実習で具体的に行動に表せることにより，考えを行動に移す力も育ってきたように思えた」と述べられている。当時から自己評価，振り返りを積み重ねて実習体系を切磋琢磨してこられて学生の成長を実習と通して実感してこその取り組みであり，本研究が目指す実習記録のあり方を示唆していただいたと考える。

（文責：松永静子）

＜まとめ＞

今回は実習記録の活用の検討を行うための予備調査ともいえる視察を行った。視察結果から学生が保育所実習，施設実習の実習後の自己評価，振り返りを通して自分の成長を可視化し，将来にも生かせる記録になり得ることが明らかになった。これらの結果を現在の実習指導の中で具体化し，各実習すべての振り返りと自己評価をもとに学生一人ひとりが自分の成長に自信をもつことができる指導を目指して記録の検討をすすめていきたい。

謝辞　今回の視察，資料提供にご協力いただきました，文京学院大学柄田先生，和泉短期大学相馬先生，十文字学園大学上垣内先生，共立女子大学白川先生に心より感謝申し上げます。

報告

平安私家集の研究ー和泉式部集とその周辺ー

久保木　寿子

和泉式部の作品研究に関する，筆者によるこれまでの研究論文の集大成を目的として研究助成を申請した。それによる研究結果は，大略，以下の通りである。

１）この間，考察の及んでいなかった部分を補完すべく，研究と執筆を進めた。

その一つが『和泉式部日記』についての考察である。従来，『日記』研究は，和泉式部の伝記考証には使われながらも，他作説の影響もあってか，『和泉式部歌集』とはほぼ無関係に進められてきた。稿者は，『日記』自作説の立場から『歌集』との連続性について考察を進めてきたが，「追懐の方法ー『和泉式部日記』の場合ー」（『王朝日記を考えるー追憶の風景』所収　武蔵野書院2011）の執筆を契機に，当該年度内に，①「『南